



学



校



便



り

第23号

since2006

久田学園佐世保女子 高等学校

H21(2009).1.27 [平成20年度 第5号]

『きものフェスティバル』出場

12月14日(日)、福岡市・電気ホールにて『全日本きもの装いコンテスト・きものフェスティバル九州大会』が開催され、本校からも9名が参加しました。内訳は振袖の部1名、カジュアルの部2名、学校対抗の部6名(2チーム×3名)です。

どの部門も、鏡も何もないステージの上で着装し、その様子が様々な面から審査されます。審査の基準は次の6つです。【①装い(仕上がりや手さばきなど)②容姿(センス・髪形など)③立居振舞(動作・所作)④情緒(内面的な奥深さや雰囲気など)⑤言葉遣い(知性・教養)⑥作文(着物に対する思いや考え方など)】単に技術の巧みさや外見的な美しさだけでの評価にはとどまらないということです。ちなみに上位入賞者は、東京で開かれる世界大会の出場権を手にすることができ

ます。本校生徒はこの大会を目指し、通常の授業に加え、放課後も暗くなるまで努力を重ねてきました。また、大会前日もホテルの部屋で夕食後に、当日は出発前にと練習を行い、準備万端で本番に臨みました。

結果の方は・・・惜しくも4位入賞ということで、夢の東京行きの切符を掴むことはできませんでした。生徒たち自身も緊張などから上手くできず、満足できなかったところや悔いが残る部分もあったかも知れません。しかし大観衆を前にして、最後まで最善を尽くしてやり遂げるということは大変なことです。このめったに味わうことができない貴重な経験を、3年生は将来への自信として、1・2年生は日々の生活や次の大会へと活かしてもらいたいと思います。特に来年は、地元・長崎県の開催です。来年こそは表彰台、そして世界大会へ向けて精進していきましょう!!



前日には美容室で、バッチリと、そしてガッチリと髪型をキメてもらった皆さん。本番に向けムードが盛り上がります・・・が、髪の崩れを防ぐため、就寝中は寝返りがうてないという出来事も。緊張や不安で心はガチガチ、スプレーで頭はガチガチと、よく眠れなかったかも知れませんが、これもまた良い経験・思い出です。大会を終え自宅に戻った生徒たちは、心と頭のがちがちから解放され、さぞ心地よい眠りに就いたことでしょう。

他にも、ホテル到着早々にルームキーを部屋に閉じ込めた生徒&先生がいたり、道を探ねた警察官が愛知県警の人でよくわからなかったり、様々な出来事があった珍道中でした。

大 豊 作 だ ! お 祭 り だ !



大久保小学校2年生の皆さんと本校生徒が、5月から大切に育ててきたサツマイモ。いよいよ収穫の時期を迎え、合同でイモ掘りを行いました。高校生と小学生が手をつないで、仲良く畑に到着。すぐにイモ掘りのスタートです。慎重に、そして大胆にスコップを土の中に入れていきます。しばらくすると驚きや喜びなど、いろいろな表情を持った声が畑中に溢れ始めました。人の顔ぐらいのものから指のような細いものまで、大小様々な芋たちが次々と掘り出されていきます。それらをどんどん積み重ねていくと最後にはスフィンクスもびっくりの“お芋のピラミッド”が完成しました。子供たちの生き生きとした表情を見ることができただけでも素晴らしいのですが、おまけに豊作とくれば、この**イモ掘りは大成功**と言えるでしょう。みんなが充実したひと時を過ごすことができました。

それから2週間後、今度は私達本校生徒が、大久保小学校にご招待されました。その名もズバリ『おいもまつり』。2年生児童の皆さんが体育館でお出迎え。生徒一人ひとりの胸に、かわいらしい手作り名札をつけてもらいます。そしてお祭りスタート!元気いっぱいの「おみこし」から始まり、コミカルな歌に合わせて軽快な「がんばらんば体操」と続けました。皆さんのひたむきさに、生徒達は『自分達こそがんばらんばね〜』と感じたことと思います。元気とパワーをもらった瞬間でした。また、それぞれ趣向を凝らしたゲームにも参加。生徒達も童心に帰ったのか、それとも素のままなのか分かりませんが、賑やかに楽しんでいるようでした。その後、家庭科室に移動し、収穫したお芋でつくったスイートポテトやポテトチップスなどをいただきました。どれもとても美味しく、あっという間に皿の上からなくなってしまいました。保護者の方や先生に手伝ってもらいながら、小さな手で懸命にお菓子をつくってくれている様子が思い浮かびます。そんな温かい気持ちで詰まった料理が美味しくない訳がありません。最後には、お礼の言葉とお手紙までいただき、お祭りはお開きとなりました。

お祭りの最中だけでなく、帰る私達が見えなくなるまでいつまでも手を振り続けた皆さんの姿に、久田学園が日頃から学んでいる**“思いやり” “おもてなし” の心の大切さ**を再確認することができた一日でした。

それにしても、~~高校生になっても段々生意気になつてきた~~**検閲**生徒達も10年ぐらい前はこんな可愛い時があった筈です。元気で素直な小学生と触れ合って、ちょっとはフレッシュな気持ちを思い出してくれば良いのですが・・・



芋ができるまで

さつまいもは勝手にできるものではありません。畑を耕し、肥料や水を与え、雑草を除き、幾つかの工程や手間をかけながら、やっと収穫できるものです。と言っても、さつまいもは比較的楽な方だと聞きます。他の野菜やお米など、農家の方はいつも休む暇もなく畑や田んぼで作物の世話をされています。雨の日も風の日も雪の日もです。生命を育てていくということは、決して簡単にできることではありません。そんなたくさんの手間暇かけて育てられた作物、言い換えれば大切に育てられた生命を私達は毎日口にしています。野菜・魚・肉、全て生命です。今回のイモづくりにご協力・ご指導くださいました『大地といのちの会』の吉田俊道様も「**いただきます**とは生命をいただくこと」とおっしゃっています。何千万という生命と引き換えに人間は生きていると言えるでしょう。だからこそ、私達は元気で朗らかに毎日を過ごし、精一杯生きること、もらった生命にせめてもの恩返しをする必要があるでしょう。また食べ物が食卓に並ぶ前に、農家や漁師の方々をはじめ作ったり獲ったりする人、運ぶ人、加工する人、売る人などたくさんの人が関わっています。「食べる」ということだけでも、多くの生命や見ず知らずの人たちのお世話になっていることがわかります。このイモづくりを通して、「あらゆるものへ感謝する」という気持ちを、身をもって学ぶことができました。



5月22日
土づくり



5月27日
うね立て



5月30日
苗植え



7月10日
雑草抜き



11月7日
イモ掘り



久田学園のボランティア・校外活動。

久田学園では、校外において積極的に様々な取り組みを行っています。特に世界的なボランティア団体「国際ソロプチミスト佐世保」の支援をいただいている「Sクラブ」は、年間を通じ熱心に活動をしています。今回は、秋から今年初めまでに行った、主な取り組みをご紹介します。

11月1日は、松浦公園のお旅所（佐世保くんち）にて、本校「佐世保獅子舞保存会」による奉納踊りを披露しました。屋外の広場ということもあり、距離感をつかむのに苦労しましたが、無事に演舞を終えることができました。何より良い経験になったことでしょう。

この時期、Sクラブも活動を行っています。11月16日、四ヶ町アーケード佐賀銀行前にて、**献血の呼びかけ**を行いました。休日の賑わいで行き交う人達を前に、少し照れや恥ずかしさもあったかと思えます。何とか勇気を振り絞って声を張り上げると、たくさんの人が善意で応えてくれました。また12月22日には、アルカスA S E B Oで行われる「クリスマス子供大会」の準備をしました。長崎新聞主催の恒例事業で、歌や手品で子供たちに楽しんでもらうイベントです。そのイベントで配るプレゼント用の紙袋に、お菓子やお面などを詰める作業を行いました。程なくして、完成した紙袋が床一杯に並び始めました。プレゼントを受け取る子供たちの笑顔が浮かびます。

本校では、音楽にも力を入れています。毎週月曜日、昼休みと5時限目の間に1時間、特別活動としてコーラスに取り組んでいます。その成果を発揮すべく、市民会館で行われた「**歳末チャリティーコーラス・コンサート**」に出演。クリスマスらしい歌を披露し、微力ながらもお役に立てたのではないのでしょうか。



年が明けた1月10日には、佐世保朝市で行われた「**朝市ぜんざい会**」をお手伝いしました。小雪がちらつくあいにくの天気の中、早朝5時に集合。2,000人分のぜんざいをつくります。今年は本校の獅子舞も登場。お祝い気分を盛り上げました。終わった後の盛大な拍手で、寒さも吹き飛びました。そして7時頃になると、いつの間にもやら鍋をぐるりと囲むように人垣ができ、後ろの方にも長い行列ができていました。いよいよスタート！次々と押し寄せるお客様に、テキパキとアツアツのお碗を渡していきます。『美味しかった〜』『あったまるね』という人もいれば『餅を1つ減らして』『小豆を多めにね』『餅だけちょうだい』など、細かく注文してくる人もいます。このやり取りが朝市の良さなのでしょう。直接言葉を交わし、お互いの表情を見ながら心を通じ合わせる。人と人のコミュニケーションの場が少なくなっている今、こういう場をもっと大事にしていきたいものです。朝市は佐世保の貴重な財産です。そういう点でも、生徒たちにとって貴重な経験と勉強ができたひと時でした。

悠久の大地にて ～インドの旅～

11月、本校校長が1週間の日程でインドを巡りました。経済発展が著しいインドですが、国内における格差の問題という現実も目の当たりに。他にも仏教発祥のこの地で、由緒ある寺院や世界遺産「タージ・マハル」の訪問などなどお土産話は尽きません。興味のある人は、お気軽に**校長室へお越しください**！／たくさんの写真とたくさんの愉快的話であなたを魅惑の「インドワールド」へいざないます。

